

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 35

学校名・団体名	福井県立南越特別支援学校
HPアドレス	http://www.nanetsu-sh.ed.jp/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	地域と共に歩む研修会・相談会・支援会を目指して
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>今回は、開校の理念でもある地域に開かれた学校を発展させるため、研修会・相談会・支援会の開催を行った。主な活動として、子ども達の地域生活や卒業後の生活を支援するために、近隣の企業施設や福祉事業所にお越し頂いて、保護者向けの相談会を行った。家庭での子育てやきょうだいの支援に関する講演会を開催し、地域の学校や関係機関にも参加を呼び掛けた。特にきょうだい支援においては、実際のきょうだい支援の会を行うだけでなく、同じような取り組みを行っている県内の特別支援学校との支援ネットワーク体制も構築した。</p>	

< 活動・研究報告 >

1. 活動の目的

本校は開校 12 年目になり、地域に開かれた学校、地域のセンター的役割を開校の理念としてきた。今後更に地域の小中学校を支援したり関係機関に相談に応じて頂いたりするなどして連携していくことは、本校の児童生徒を知ってもらうことでもあり、子どもの活動が少しずつ地域へと広がっていくことを支援することにもつながっていくことだと考えている。

以上を踏まえて今回は、地域との連携をさらに深めて、地域と共に歩む学校づくりを目指したいと考えた。

2. 活動の計画

7月8日	・何でも相談会・企業施設説明会	1月13日	・子育て支援講座(きょうだい支援に関する講演会)
10月1日	・防災研修会		・第2回きょうだい支援ネットワーク会
11月16日	・第1回きょうだい支援ネットワーク会	3月6日	・熊本県特別支援学校への手作り教材の紹介
12月9日	・就労支援フォーラム2017参加(～10日)		

3. 活動報告

(1) 何でも相談会・企業施設説明会(7月8日)

① 目的

○近隣の企業施設や福祉事業所などにお越し頂き、子ども達が地域での生活や卒業後の生活を営む上で有益な情報を保護者に提供したり、相談の場を設けたりする。

② 内容

全体会(前半)	・福井大学 新井豊吉先生より、子育てに役立つ講演を聞く。	
各ブースでの相談会(後半)	企業施設	・子ども達に適した進路先に関する話を聞く。
	関係機関	・ショートステイや福祉制度などの情報を聞いたり、地域生活に関する相談を行う。
	教育相談	・新井先生及び本校教育相談部による子育て相談会。 ・講師による心理リハビリテーション教室。
	卒業生と保護者の会	・企業施設など、就職先での様子を聞く。
	I C T 体験	・家庭で役立つ i P a d 活用方法を知る。

③ 参加、募集

○参加依頼： 参加頂く企業施設を選定し、派遣依頼を行う。当日の打ち合わせをする。

○参加機関： 21(右表)

○参加募集

案内チラシを制作し、県内特別支援学校、近隣の小中学校や関係機関に千枚配布した。

○参加者： 252名

企業施設	◎福祉的就労施設(A型) 「(株)たけふ福祉工場」「(NPO)ハートランド」「(社)水耕栽培事業部」「(株)ウェルファーム」
	◎福祉的就労施設(B型) 「(NPO)はず工房 花里音」「(社)福授園」「(社)光道園」「(NPO)すてっぷ」 「(社)わかたけ共済部」「(社)びーぶるファン」「(社)ひまわり」
◎生活介護系施設	◎絆の会(本校卒業生とその保護者の会) 「(社)あいの里」「(株)サポートセンターふう」
事業所	「福井県総合福祉相談所」「越前市社会福祉協議会」「越前市社会福祉課」「鯖江市社会福祉課」 「南越前町保健福祉課」「障がい相談支援センター えちぜん」「コム・サポートプロジェクト」

④ 当日の様子

福井市や嶺南からも参加があり、過去最高の参加者数となった。参加者のアンケートにも、「息子達の将来が明るくなった」「教員の意識が灯台下暗しの気がした」とあった。



募集チラシ



企業ブース



相談ブース



広報誌と全体会

⑤ 活動報告

各会場の写真や相談会の概要、詳細な講演録など計6ページの活動報告を、何でも相談会特集号として制作し、参加者はもちろん、県内特別支援学校などの関係機関に500部配布した。

(2) 防災研修会(10月1日)

① 目的

○大地震発生後、児童生徒の安全を確保し、保護者に引き渡すまでの流れを体験する。

② 内容

保護者(会議室)	児童生徒、教員(アリーナ)
◎ 大地震発生後対応の説明 ○学校管理下での対応 ○在宅時での安否確認 ・広域避難場所での安否確認 ・防災 WEB171の説明	◎ 避難生活の体験 ・隊形、横になる、毛布を被る ◎ 非常食試食体験 ・保存用のご飯、パン、ビスケット、水 ◎ エコノミークラス症候群対策体操
◎ 引き渡し訓練： 保護者が玄関で待ち、アリーナにいる子どもを引き渡す。	



防災頭巾と避難



新聞毛布と避難生活

③ 活動の様子

○保護者の研修では、避難から避難隊形、児童生徒引き渡しまでの説明を真剣に聞いて下さり、安心感も見られた。児童生徒の訓練では、非常食の試食で食べられない子が少なく安心した。

④活動報告 広報誌に防災研修特集を詳しく掲載し、本校全保護者及び教職員、関係機関に配布した。

(3) 就労支援フォーラム2017への参加(12月9日、10日 於：東京都新宿区)

① 研修内容

パネルディスカッション	① 一般就労と定着のための試行錯誤、② 報酬改定はどうなる
分科会 I - U	軽作業は低賃”は事実か? ~ 既成概念を打ち破れ! ~

② 研修後の共通理解について

就労継続支援A型、B型を運営する事業所長の困り感や、就労定着について全国規模での意見交換が行われた研修で得た内容は、校務部会での伝達会や資料の校内配布を行い、情報の共有・共通理解を図った。

(4)被災地特別支援学校への手作り教材の紹介

① 目的

本校教員からなる教材製作グループでは木工、パソコン、電子工作といった技術を使って、木製教材やプリント教材、電子教材などを製作してきた。その中の教材を今回の助成金を活用して複数製作し、被災地の特別支援学校に紹介する。

② 教材について

○教材名 誤操作防止機能付きキッチンタイマー

○使い方 子どもに活動終了時間を知らせるために使用している市販のキッチンタイマーに、「誤操作防止スイッチ」を取り付けた。そのスイッチを押しながら時間設定する仕様で、子ども自身では操作しにくい、アラーム音が鳴るまで誤操作が起きにくい。



③紹介した県外の学校 熊本県の特別支援学校 16校

(5)きょうだい支援に関する取り組み

① 目的

○障害のある兄弟姉妹を持ちながら多感な時期を過ごす子どもたちに、創作や調理などの様々な活動を通して、一緒に楽しく時間を過ごす機会を提供する。

○きょうだい支援を実施または検討している団体が、お互いに連携して情報や課題等を共有していくことで、これからの運営に関するさまざまな課題解決に向けた新たな取り組みを検討していく。

② 南越きょうだい会

本校では、「南越きょうだい会」を、年に2回9年間に渡って実施してきた。今年度も6月と11月に定例のきょうだい会を実施したが、今回の講演会当日にもミニきょうだい会を開催して講師に視察、助言を頂いた。

○ミニきょうだい会 (1月13日)

小学2年生から中学3年生までの4名が参加し、ゲームや作品作り、おやつ作りを行った。

隣の人にボールを渡す爆弾ゲームでは、音楽が止まった時に簡単な自己紹介を行い、気持ちや目標を話し合った。フープくぐり、パラバルーンでは、協力してゲームを楽しんだ。最後にトライフルを作り、カラフルに出来上がったおやつを食べながら、楽しかった活動を振り返った。

会後の懇談会では、講師のからきょうだい同士が集える場を提供していくことの大切さや他校のきょうだい達との合同「きょうだい会」の提案を頂いた。



ミニきょうだい会

会員	福井大学附属特別支援学校、福井東特別支援学校、奥越特別支援学校 南越特別支援学校、福井県特別支援教育センター
助言者	仁愛大学 森俊之先生
事務局	南越特別支援学校 教育相談部



きょうだい支援ネットワーク会

③ きょうだい支援ネットワーク会

○「きょうだい支援ネットワーク会」の設立

○定例会：毎年 11月

○第1回きょうだい支援ネットワーク会(平成29年11月16日、於：福井東特別支援学校)

福井大学附属特別支援学校、福井東特別支援学校、奥越特別支援学校、南越特別支援学校、福井県特別支援教育センターから6名が参加し、各校のきょうだい支援に関する情報交換と今後の連携について協議した。

○第2回きょうだい支援ネットワーク会(平成30年1月13日、於：本校)

福井大学附属特別支援学校、福井東特別支援学校、南越特別支援学校、福井県特別支援教育センターから8名と、助言者の仁愛大学 森俊之先生が参加した。講演会参加、ミニきょうだい会の視察や懇談会を実施した。

④ きょうだい支援に関する講演会(1月13日)

○講師：ケアラーアクションネットワーク代表 持田恭子先生

○参加者：54名。

※案内チラシを本校、県内特別支援学校、近隣小中学校及び関係機関に配布した。

○講演内容及び講演の様子

『きょうだいの本当の気持ち』という演題で、ご講演頂いた。当日福井県内は大雪となり参加者が予定より減ったが大変盛況であった。講演では、子どもの成長に必要なものや、生活・家庭・教育・社会などのきょうだい児を取り巻く環境、きょうだいの気持ちと同級生の気持ち、家庭の中にある見えない壁などについての紹介と、そこから見えてくるきょうだい児に必要なことなど、大変貴重なお話を伺うことができた。



持田先生の講演会

4. まとめ

地域との連携を深める実践の主な成果を3つに分ける。1つは、これまで実践をさらに発展できたこと。何でも相談会では昨年よりも参加者の数が増えたり、新しい講師による講演会が開催できたりした。2つは、取り組みの形ができたこと。きょうだい支援ネットワーク会では、県内特別支援学校と定期的に連携することになった。3つは、課題が次につながったこと。防災研修では、地域の人との話し合いが実現できなかったが、研修が充実したことで次の機会に検討することとなった。以上が成果であるが、広報や出張などで助成が受けられたことが実践の切っ掛けとなり、大きな前進につながったといえる。